

2. 費用便益比(B/C)の点検結果

○計画交通量と事業費

計画交通量	20,000台/日
事業費	118億円

【参考】

前回評価時[※]の計画交通量 21,700台/日
 前回評価時[※]の事業費 101 億円

※平成14年度評価

○点検結果

事業全体	B/C=1.3
------	---------

注) B、Cは、評価時(平成21年度)の価値に換算している。

【参考】

前回評価時[※]の事業全体B/C=1.7

※平成14年度評価

○便益(B)の内訳

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益
事業全体	146億円	13億円	1億円

3. コストの見直し

○ 全体事業費 約 118 億円（前回（平成 14 年度）評価時の事業費約 101 億円）

1. 事業費の増加要因

・ 現地精査の結果による用地補償費の増加 約 17 億円

2. コスト縮減の取り組み

・ 道路端の擁壁に既製品を採用など 約 0.2 億円

※事業費の増減：約 17 億円（約 17 億円－約 0.2 億円）

4. 便益(B)に計上されていない効果

①歩道整備による通学児童等の安全性向上

- ・約21,000台／日（平成17年度道路センサス交通量）の車両が通行し、事故多発地点である本町2丁目交差点部を有する一般国道168号の整備（4車線化・歩道設置）により、通学路として利用する児童数が約630人の王寺小学校等の通学児童等の安全性が向上。

②医療機関への緊急搬送時間の短縮

- ・第2次救急医療機関である県立三室病院への緊急搬送時間を短縮。
（島田4丁目付近から県立三室病院への所要時間約2分短縮、平成20年搬送実績約200件）

③緊急車両のアクセス向上

- ・西和消防署からの到着時間が短縮。
（西和消防署から島田8丁目付近への所要時間が約2分短縮、平成20年出動回数約8件）



写真4
（通学児童の状況）

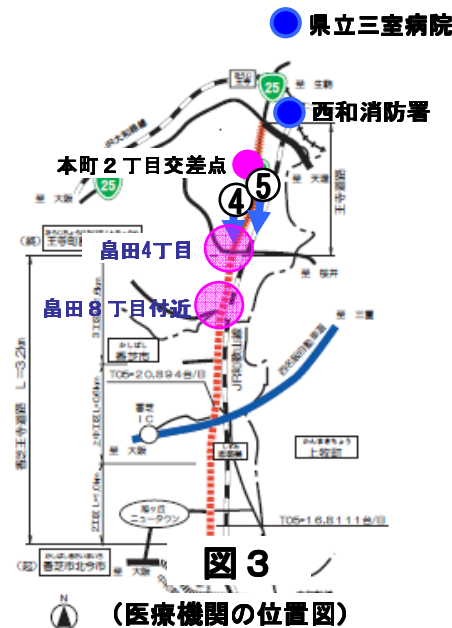


図3
（医療機関の位置図）



写真5
（交通渋滞の状況）